

四種混合 予防接種

4種混合ワクチンは従来の三種混合ワクチン（ジフテリア、百日咳、破傷風）に不活化ポリオワクチンを加えて作られているもので、2012年から使われています。

これまでは生後3か月から接種が始まっていましたが、2023年4月以降は生後2か月からの接種になりました。小さな赤ちゃんが百日咳にかかると重症になるおそれがあり、それを避けるための対応です。



一口メモ

予防接種の注意・お願い

予防接種を安心して受けるために、いくつかのことを心がけてください。

- 受ける予防接種について、病気のことやワクチンの効果・副反応などについて、あらかじめ知っていてほしいと思います。市町村からの文書や、育児書（雑誌）なども参考してください。分からないことなどがありましたら、会場の職員や医師にたずねてください。
- 健康状態の良い時に受けましょう。心配なときは無理せずに延期したり、医師に相談してください。
- 前日は入浴して、体を清潔に。
- 予診票は、良く読んで、きちんと記入しましょう。
- 母子手帳も忘れずに。（個別接種では、念のために保険証も）
- 接種の会場で、体温を測り、記入します。
- 予期できない重篤な副反応が、注射のあと15～30分以内におきることがあります。すぐに帰らず、しばらく会場で様子を見てください。
- 接種の当日は、入浴をふくめていつもと同じ生活でいいのですが、激しい運動はさけてください。

四種混合の予防接種は、ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオの4つの病気に対するワクチンが混合してあります。このうち、百日咳はまだときどきみかけますし、とくに赤ちゃんがかかると、呼吸を止めてしまうこともあり、大変に怖い病気です。お母さんからの移行免疫はほとんどなく、生れたすぐの赤ちゃんがかかると、乳児期の早い時期に予防接種できちんと免疫を作っておいたほうがいいといわれています。

ジフテリアと破傷風は、現在はほとんどみることのない病気ですが、子どものときに作られた免疫で長く病気から守られます。

ポリオは「小児麻痺(まひ)」とも呼ばれ、手足などのまひをおこすことがある感染症です。かつて日本でも大流行がありましたが、昭和30年代に経口生ワクチンの投与が開始され、劇的に患者さんが少なくなりました。しかし、東南アジアなどの開発途上国ではいまでも流行しています。

以前は経口生ポリオワクチンを使っていましたが、本人と周囲にワクチン関連まひという副作用をおこすことがあるため、より副作用の少ない不活化ポリオワクチンに変更されました。

予防接種を受けたあとの注意

※予防接種の副作用として、ごくまれに、注射の直後に急に具合が悪くなることもあります(アナフィラキシー・ショック)。万一のために15分程度は医院の中にいていただき、そのあともしばらくは医院にすぐひきかえせるようにしてください。(その場で適切な処置をすれば、最悪の事態は避けられます。)

四種混合ワクチンは不活化してあるワクチンです。

次に受ける異なるワクチンとの接種間隔は、とくに制限はありません。

四種混合予防接種

予防接種法による定期接種：

1期 生後2か月～90か月(7歳半)未満

初回は3～8週の間隔で3回(標準は3か月～12か月未満)
追加は初回完了後6か月以上おいて1回(標準は初回終了後12～18か月未満)

【0.5ml ずつ】

2期 二種混合(ジフテリア・破傷風)

11～12歳(標準は11歳)

【0.1ml】

四種混合ワクチン(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)

- ①注射したところは、適度にもんでください。
- ②今日は激しい運動は避けてください。(入浴はかまいません)
- ③接種したあと、丸1日以内に熱をだすことがときにあります。
- ④注射したところがはれやすいワクチンです(回数をくりかえすほどはれやすい)。1～3日ぐらいで赤くなりだし、はれてきます。かゆみや痛みが強いようなら、診察を受けてください。(かゆくてひっかいていると、ますますはれがひどくなります。)かなりはれても、1週間～10日ぐらいでおさまります。
- ⑤今回が・1期の1回目・・・次は約4週間(3～8週間)後に2回目の注射
 - ・ “ 2回目・・・次は約4週間(3～8週間)後に3回目の注射
 - ・ “ 3回目・・・次は1年～1年半後に追加の注射
 - ・ “ 追加・・・1期は終了(基礎免疫の完成)

 - ・ 2期(二種混合)・・・終了(追加免疫)